

幼稚園教諭の職業意識調査

—他職種教員との職業イメージ比較—

金森由華

Kindergarten Teacher's Occupational Consciousness Investigation

—Comparison of a job-specifications image with Other teachers—

Yuka Kanamori

要旨：子どもの安定した成長発達を促すためには、経験豊かな幼稚園教諭の存在が欠かせない。しかしながら、幼稚園教諭は早期離職する傾向にある。また、先行研究により幼稚園教諭の社会的地位は他教員より低く捉えられがちであることが示されている。幼稚園教諭の教員として専門性を確立することは、幼稚園教育の発展になるとの着想に至った。

本研究では、幼稚園教諭自身は自身の職務内容について他職種教員と比較しどの様にイメージしているのかを明らかにした。その結果、幼稚園教諭自身は他職種教員と比べ社会的地位が低いと表明していなかった。しかし、他職種教員に比べ特殊な技能が必要でないと感じている事が示された。一方で、幼稚園教諭という職業にやりがいを感じており、他職種教員より責任が重く、子どもへの影響は強いと感じていることが示された。

Keywords : 幼稚園教諭、教員、職業イメージ、社会的地位

Kindergarten Teacher, Job specifications, social standing

1. 幼稚園教諭の社会的地位に関する先行研究

平成22年度、文部科学省学校基本調査によると幼稚園数は約13500園あり、そのうち私立幼稚園は約60%を占めている。教員は約110000人おり、私立幼稚園は約8500人いる。私立幼稚園教諭の平均勤務年数は約9年と経験豊かな教諭が少数であることが明らかになっている。また、私立教諭の平均月額給与は182,500円であり、収入がよい職業とはいえない。一方で小学校教員の平均勤務年数は約20年であり、月額平均給与は337,700円である。(1)

幼稚園教諭は学校教育を担う教員として位置づけられながら、小学校教諭より専門性が低いと思われがちである。幼稚園教諭の処遇について、すでに明治13年には小西信八(注1)が幼稚園保母と小学校訓導との処遇均衡がとれておらず、同一にするように文部省に願い出ている。「小学校は正職員扱いであったが、幼稚園保母は臨時職員扱いであった。同じ学びをしても、小学校へ就職する者は正規職員となり、幼稚園へ就職する者は臨時職員となった。そのため優秀な人材は小学校へ行き、幼稚園にはいい人材は回ってこなかった。」と訴えている(2)。それから130年以上たった現在でも、公立幼稚園では改善がみられるものの、私立幼稚園は同じような問題を抱えている。小学校教員免許が取得できる幼稚園教諭養成校では、小学校に就職を希望する傾向にある。

戦後、福島ハマ(注2)が幼稚園教員の給与の実態について「幼稚園保母の報酬は月額238円であり全国

女子勤労者平均 494 円に比べはるかに低い、生活保護法で最低生活保障のための金額が月額 300 円であった。「私立幼稚園の給与はまことに低廉なものであり、教員の給与を引き上げたために幼稚園経営難に陥り、閉鎖せざるを得ない幼稚園、あるいは助成金のできる保育所に看板替えるものなどもあらわれた」⁽³⁾と述べられている。

このような訴えがたびたびある中で、明治から現在に至るまで幼児教育を担う幼稚園教諭の労働環境や社会的地位に関する研究は少数しか行われていない。そのため、明治期からは改善の方向にあるが、現在においても幼稚園教諭は教員のなかで専門職として低く扱われがちであり、幼稚園教諭の労働にボランティア精神は不可欠であると思われがちである。幼児教育の現場は、そのボランティア精神に多く頼るところがあり、幼稚園教諭の仕事内容が過重になっている。

数少ない幼稚園教諭の社会的地位に関する研究では、高山（2004）は、幼稚園が学校教育の一環として成立していく過程において、幼稚園教諭の待遇が小学校教員より低い要因を「明治 30 年代においては 5 歳児の就園率は 1%程度であり、園児は高い階層の子弟がほとんどであったこと、保姆はそうした階層にアクセスできる知人の紹介でリクルートされていたこと、幼稚園教育は学校教育ではなく家庭教育を補うものとされていたこと」などを挙げている。つまり、幼稚園教諭は職業としてではなく、結婚前の自己実現が目的であったのである⁽⁴⁾。

現代の幼稚園教諭の社会的地位に関しては、西本（1962）が無作為抽出した男女に保育者の社会的地位をどの様に捉えているのかを調査している⁽⁵⁾。同様の調査を野呂（2009）が行い、約半世紀の間に幼稚園教諭の社会的地位はどの様に捉えられているのかを調査した。その結果、50 年間で幼稚園教諭の社会的地位はほぼ同じで、専門職としては低く扱われていることが示されている。また、看護師は幼稚園教諭と同じく女性の職業として見られているが、約 50 年間で著しく地位を向上させていることが示された⁽⁶⁾。

幼稚園教諭の専門性は、保育者の専門性として保育士と同様に議論されることがある。本研究では、幼稚園教諭を教員としての側面から他職種教員と比較することにより、幼稚園教諭の教職として地位を強調する。保育所と幼稚園が一体化されていく傾向にある中で、あえて幼稚園教諭に焦点をあてる意義としては以下のとおりである。私立幼稚園は建学の精神などの尊重のため多くの幼稚園や子ども園へ移行せずに現状維持のままである可能性が高いためである。また、子ども園では、3 歳児から 5 歳児の保育において幼稚園が培ってきた幼児教育の部分が排除される可能性が低い事が予想されるため、幼稚園教諭の専門性の確立により充実した活動を行える。幼稚園教諭の専門性については、共通の定義があるわけではないが、一つは、学校教育法を基に「その後の教育の基礎を築く教育を行うこと」であるといえる。

2. 目的と調査概要

本研究の目的は、幼稚園教諭自身は幼稚園教諭を小学校、中学校、高等学校の教員と比較し自身の職務内容をどの様に捉えているかを明らかにすることである。その結果は、今後の幼稚園教諭養成のあり方や、幼稚園教諭の研修などの内容のありかたを再考する一因となることが予想される。

調査概要は以下の通りである。2012 年 7 月に名古屋市の私立幼稚園に勤務する幼稚園教諭に質問紙を配布し 72 名から回答を得た。幼稚園教諭、小学校教員、中学校教員、高校教員の職業イメージを回答する調査である。質問紙の項目は社会階層と社会移動調査研究会が行った職業威信調査の項目を参照に作成した⁽⁷⁾。

質問項目はそれぞれの教職に関する職務について感じている事として「特別な技能が必要であるか」「子どもへの影響力はあるか」「大人への影響力はあるか」「地域への影響力はあるか」「世間からの尊敬の大きさ」「責任の大きさ」「社会への貢献度」「学校（最終卒業校）で学んだことを活かしているか」「仕

事の内容を自分で決められる」の10項目である。質問項目ごとに「強い5～弱い1」までの5段階で回答する。

3. 結果と考察

本調査研究をとおして、以下の事が示された。幼稚園教諭は、自身の社会的地位や収入に満足している事はないが、幼稚園教諭という仕事にやりがいを感じている場合が多い事が示された。幼稚園教諭の職業イメージは、他職種教員と比較し世間から尊敬されているとは感じていない事が示された。しかし、他職種教員と比較し責任が大きく、子どもへの影響が強いと感じていることが明らかになった。「特別な技能が必要か」「世間からの尊敬は大きいか」の項目で、他職種教員より低く感じている。「地域への影響は大きいか」の項目で小学校教員、中学校教員より低く感じていることが示された。

1) 調査対象者に関する属性および自己像

質問紙の初めに自分自身の事に関して「社会的地位は高いと思うか」「学歴は高いと思うか」「収入は高いと思うか」「生まれ変わったらもう一度幼稚園教諭をやりたいと思うか」の4項目質問した(図1)。

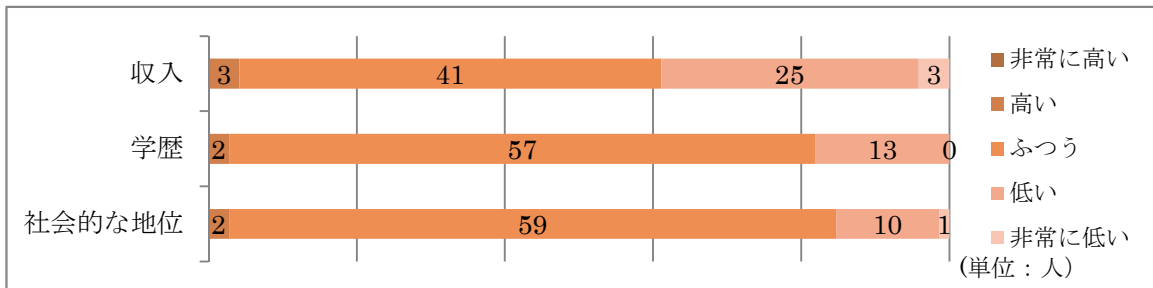


図1-教諭自身に関する質問

「社会的地位は高いと思うか」という質問では、「非常に高い」と答えた教諭は一人もおらず「高い」は2名「ふつう」は59名「低い」は10名「非常に低い」は1名であった。おおむね「ふつう」であると示されていた。それにより、幼稚園教諭の社会的地位が低いと表明している教諭はあまりいないが、社会的地位に満足している教諭も少数であることが示された。「学歴は高いと思うか」という質問では、「非常に高い」を選んだ教諭は一人もいなかった。「高い」2名「ふつう」「低い」13名「非常に低い」も一人もいなかった。「収入は高いと思うか」という質問では、「非常に高い」は一人もいない。「高い」3人「ふつう」41人「低い」25人「非常に低い」3人であった。

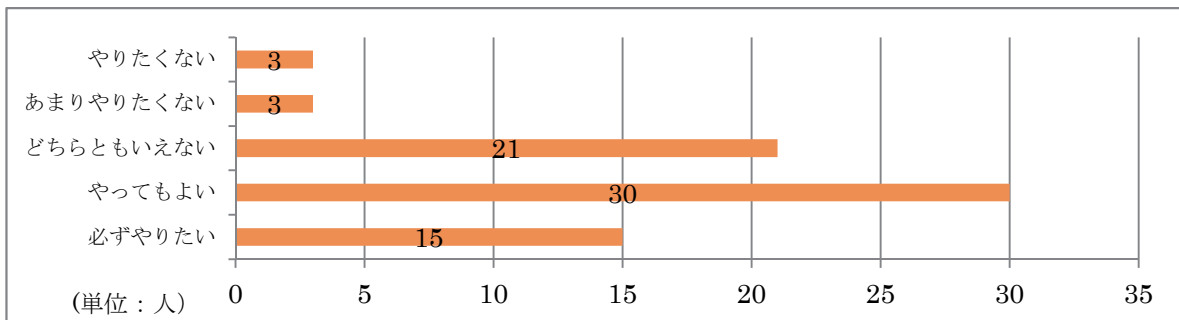


図2-生まれ変わったらもう一度幼稚園教諭をやりたいか

生まれ変わったらもう一度幼稚園教諭をやりたいと思うか」という質問では、「必ずやりたい」15人「やってもよい」30人「どちらでもよい」21人「あまりやりたくない」3人「やりたくない」3人である(図2)。半数以上が幼稚園教諭という職業にやりがいを感じている事が示された。

2) 調査対象者が抱く幼稚園教諭および他職種教員に関する職務内容に対するイメージ比較

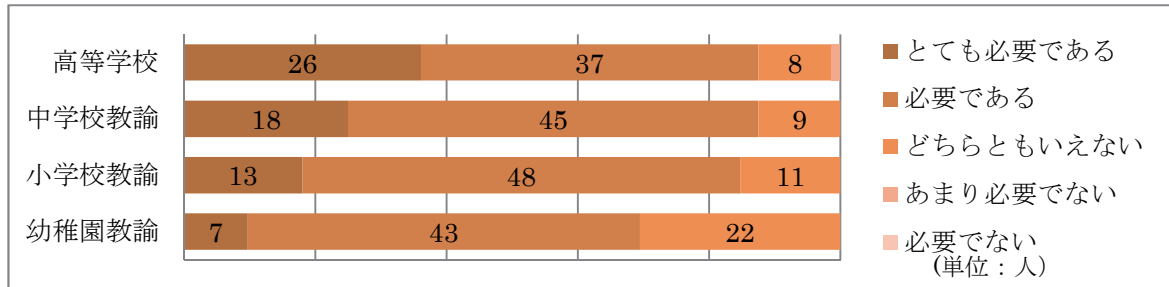


図3 - 特別な技能が必要だと思うか

幼稚園教諭、小学校教員、中学校教員、高等学校教員の職務内容の比較結果は以下の通りである。

「特別な技能が必要だと思うか」という質問では(図3)、「幼稚園教諭」「小学校教諭」「中学校教諭」「高等学校教員」ともおおむね必要であると感じているようだが、高等学校教員に対して、最も特別な技能が必要であると感じていることが示された。幼稚園教諭は他職種教員に比べ特別な技能が必要であると感じている幼稚園教諭は少数である事が示された。

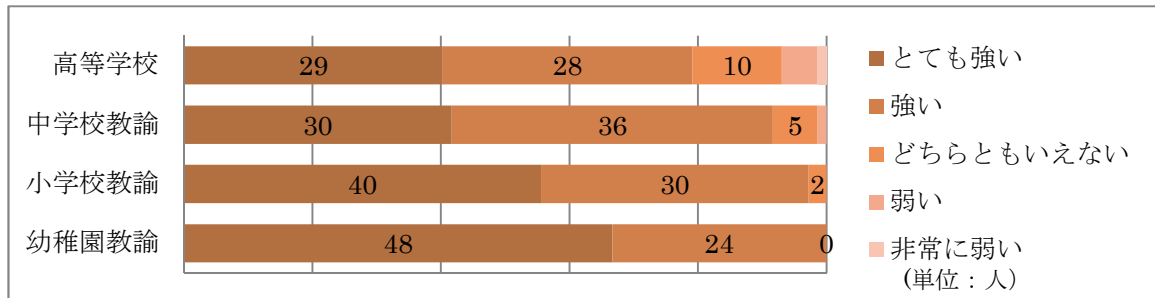


図4 - 子どもへの影響

「子どもへの影響は強い」という質問では(図4)、「幼稚園教諭」「小学校教諭」「中学校教諭」「高等学校教員」ともおおむね強いと感じているようである。特に幼稚園教諭に関しては他教員と比較し子どもへの影響が強く、子どもとの関わり方を強く意識している幼稚園教諭が多い。幼稚園教育は、他の教育機関と比較し教育に占める保護的要素が強く、発達段階の特性から自立性、社会的経験が乏しいため幼稚園教諭が子どもに与える影響が強いと考えていることが要因であると推測できる。

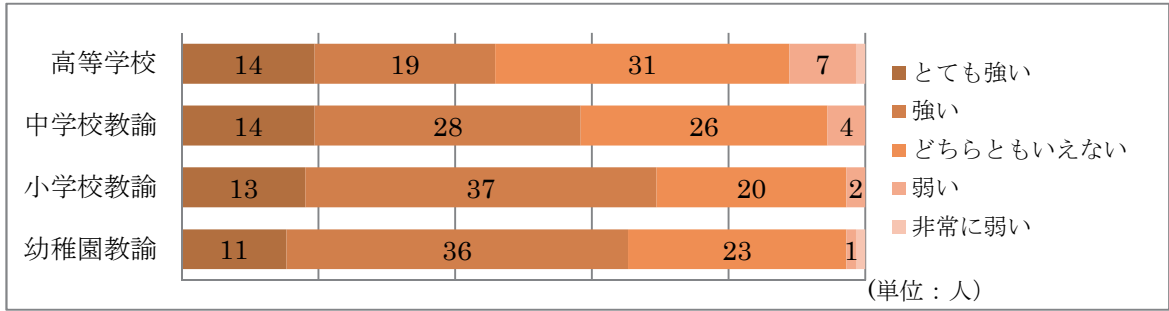


図5 - 大人への影響

「大人への影響は強いかな」という質問では(図5)、「幼稚園教諭」「小学校教諭」「中学校教諭」「高等学校教員」では幼稚園教諭と小学校教諭に対しては、おおむね同じ数値を示した。中学校、高等学校と大人への影響が弱くなっていくと感じている事が示された。それぞれの教育機関の対象となる子どもの発達段階の自立心、社会的体験、対人関係の特性が影響していると考えられる。

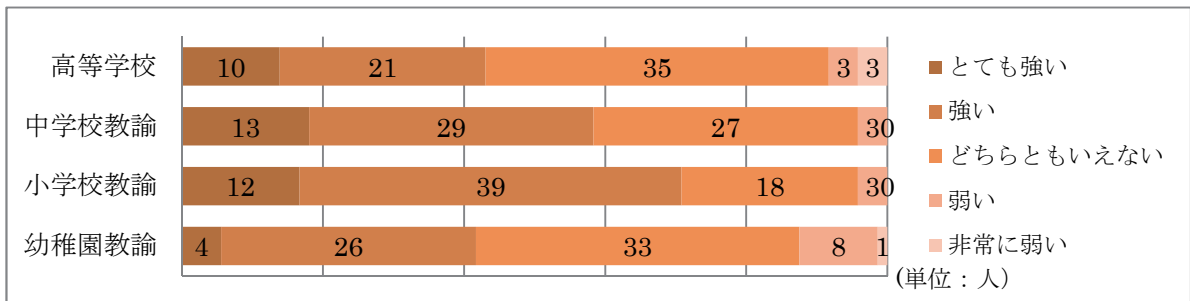


図6 - 地域への影響

「地域への影響は強いかな」という質問では(図6)、「幼稚園教諭」「小学校教諭」「中学校教諭」「高等学校教員」では、特に小学校教諭、中学校教諭に対して、地域への影響が強いと感じている事が示された。共通する要因として、義務教育であることが推察できる。義務教育は公立の場合多くが学区制になっており地域のイベントなどで学校施設を開放していることが多く、その事が小学校教諭と中学校教諭に対し地域への影響が強いと感じる事が一因であると考えられる。

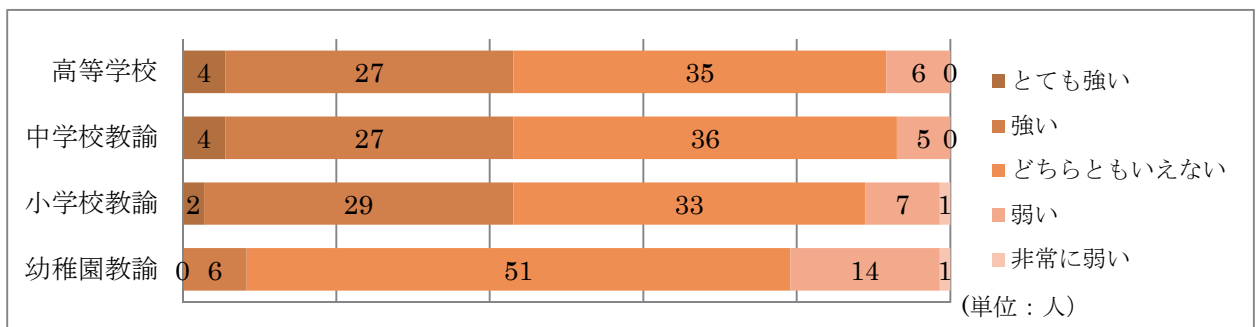


図7 - 世間からの尊敬

「世間からの尊敬は強いかな」という質問では(図7)、「幼稚園教諭」「小学校教諭」「中学校教諭」「高等学校教員」では大きな差がみられた。他職種教員に対しては約半数の回答者が世間からの尊敬があると感じているのに対し、幼稚園教諭が世間からの尊敬があると感じているのは、わずか6名であった。他

職種教員と比較し幼稚園教諭は世間からの評価が低いと感じている事が示された。保護者、特に母親の高学歴化や社会進出が進み、教員の社会的評価は幼稚園教諭のみではなく、すべての教員が低下してきていると感じている事が予測できる。そのような状況の中、幼稚園教諭は世間からの尊敬が著しく弱く感じていることが推測できる。

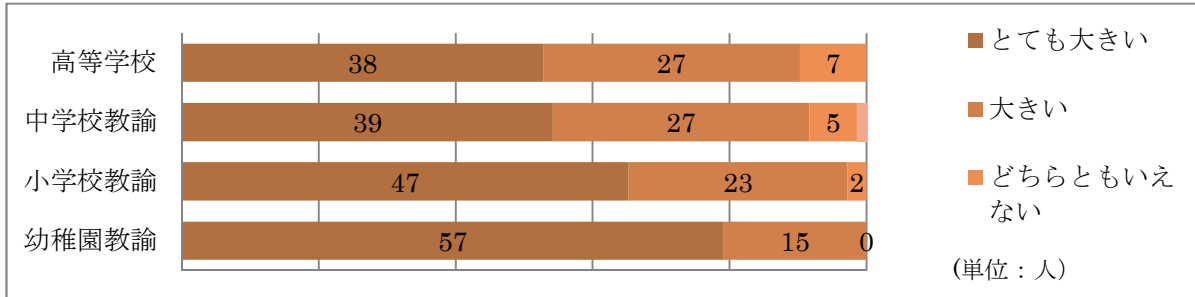


図8 - 責任の大きさ

「責任の大きさ」という質問では(図8)、「幼稚園教諭」「小学校教諭」「中学校教諭」「高等学校教員」に対し、ともに責任は大きいと感じている事が示された。幼稚園教諭に対して、回答者全員が「とても大きい」「大きい」を選択している。回答者全員が幼稚園教諭は責任が大きいと感じている事が示された。

幼稚園教諭という仕事は重要な仕事であることを意識していることが示唆された。小学校から高等学校へと成長していくに従い、「とても大きい」と回答した数が減少している。回答者全員が幼稚園教諭は子どもの発達段階の特性から保護的要素を強く求められていることを十分に理解している事が示唆された。

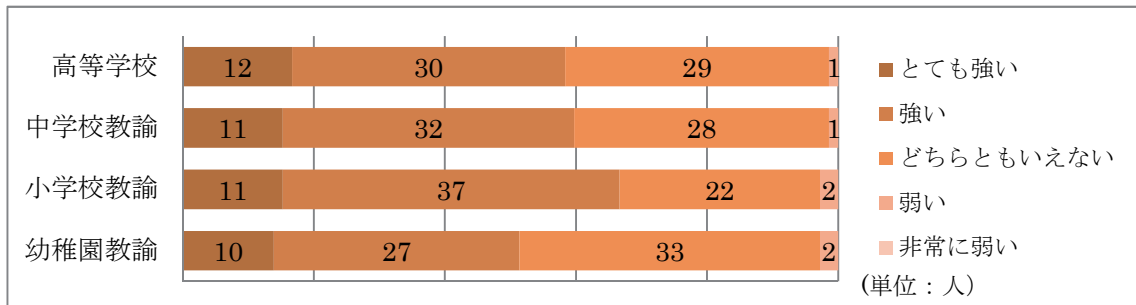


図9 - 社会への貢献度

「社会への貢献度は強いか」という質問では(図9)、「幼稚園教諭」「小学校教諭」「中学校教諭」「高等学校教員」を比較し、おおむね同数であった。約半数の回答者が幼稚園教諭は社会への貢献度が強いと感じていることが示された。しかし、他教員の社会への貢献度と比較すると少数になっている。

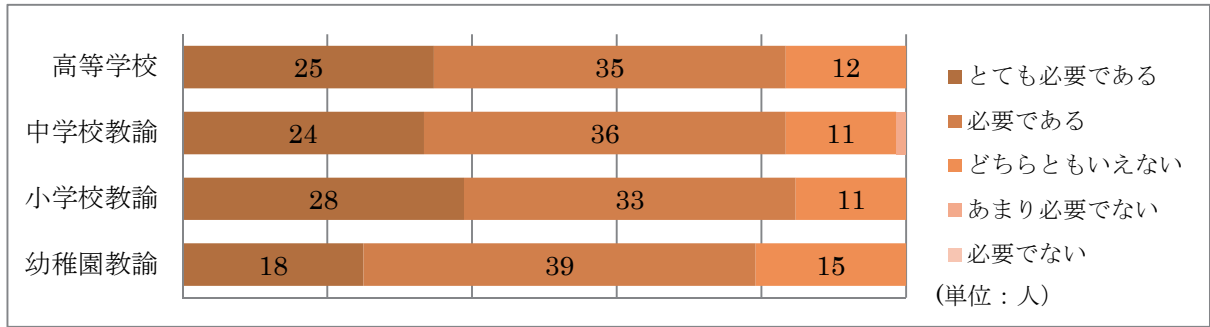


図 10 - 文化的教養は必要か

「文化的教養は必要か」という質問では(図 10)、「幼稚園教諭」「小学校教諭」「中学校教諭」「高等学校教員」に対し、共に必要であると感じている事が示された。わずかながらに、幼稚園教諭が少ないが大きな差は見られなかった。しかし、「とても必要である」の項目に注目すると、他職種教員と比較し差が生じている。

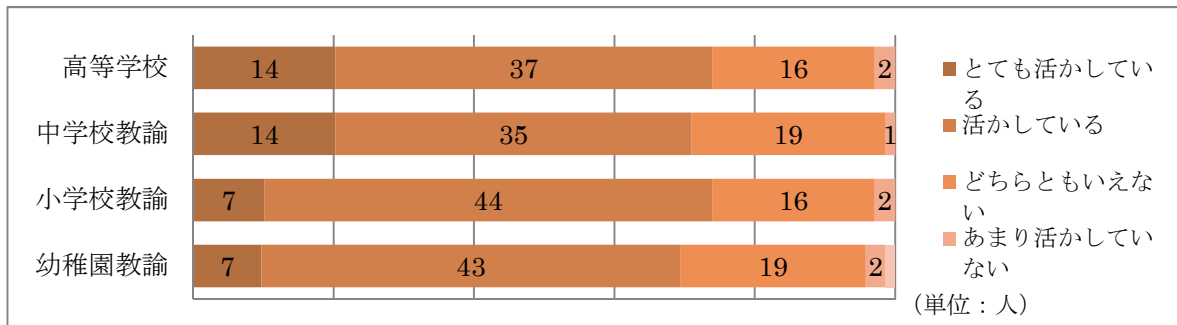


図 11 - 最終卒業校で学んだことを活かしているか

「最終卒業校で学んだ知識を活かしているか」という質問では(図 11)、「幼稚園教諭」「小学校教諭」「中学校教諭」「高等学校教員」に対しても、最終卒業校で学んだ知識を活かしていると感じている事が示された。「とても活かしている」では高等学校・中学校と小学校・幼稚園間での差がみられたものの、活かしていると感じている総数ではあまり差がみられなかった。このことにより、幼稚園教諭養成校で学んだ知識は幼稚園で役立てられていることが推測できる。

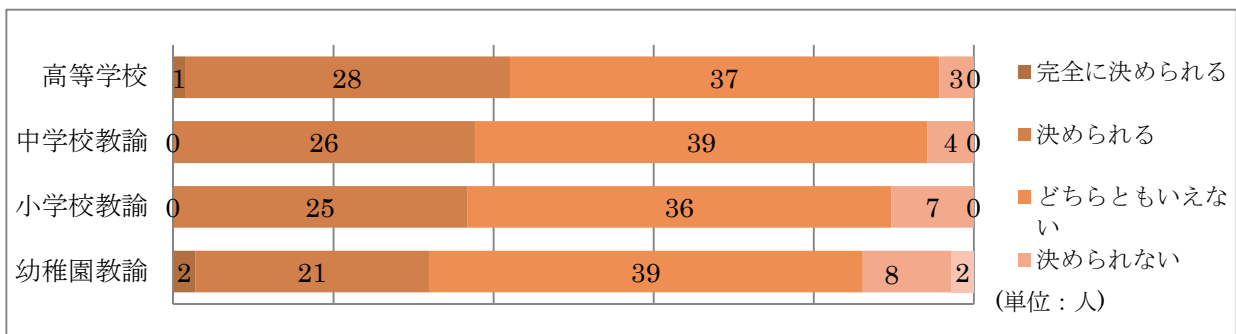


図 12 - 自分の仕事内容を自分で決められるか

「仕事の内容を自分で決められるか」という質問では(図 12)、「幼稚園教諭」「小学校教諭」「中学校教

論」「高等学校教員」とともに仕事の内容を自分で決められないと感じている。幼稚園教育は教科のない教育であり、他職種教員と同じく教師の工夫によって教育活動が構成されていることが重要であるが、幼稚園教諭自身は自分の仕事内容を自分で決められないと感じている場合が多い事が示された。

4. まとめ

今後の幼稚園教諭養成や幼稚園教諭の現任研修の内容として、低く捉えていた項目に関しての啓発を促す研修が必要である。具体的には「特別な技能が必要か」という項目に関しては、幼稚園教育が教科のない教育であり、その後の教育活動の基礎である事を理解する事が必要である。「地域への影響は大きいか」という項目に関して、幼稚園は地域の幼児教育センターの役目を担っており、地域における子育て支援の活動も今後期待されていることを、幼稚園教諭と地域に理解を深めていく必要がある。

これらのことを、幼稚園教諭養成や現任研修の機会で啓発している必要がある。啓発していく過程で「世間からの尊敬」も大きくなっていくであろう。

5. 今後の展望

幼稚園のみではなく教育現場は様々な問題を抱えている。とくに私立幼稚園では教員不足が大きな課題となっている。現場では優秀な教員を育てる事と優秀な人材を確保することが必要である。しかしながら、保育職を志望して養成校に入学しても小学校教諭を目指したり、一般企業、公務員を目指す学生が少なからずいる。また、就職しても1カ月も経たずに退職する新任教諭もいる。さらには、都市部では待機児童解消のため保育所の増設が多くなっている。そのことも幼稚園教諭確保を困難なものにしている。就職を結婚前の繋ぎ期間として認識している女子学生は少なく、多くの学生は安定した職業を求めている。幼稚園教諭を志望する学生の多くは公立幼稚園を志望している。そのため、私立幼稚園では優秀な人材を確保する事が困難になり、退職者に復帰を促し教員不足を補足している場合が多い。幼稚園の公私格差についても今後注目していく必要がある。

先に述べたが、幼稚園の草創期から現在に至るまで、幼稚園教諭の処遇は問題にされているが表だって取り上げてはいない。改善要求はされているものの、未だ改善途中である。早急に改善を望む事は不可能であるが、さらなる改善点を研究していくことは重要である。

改善の一つの要因として専門性を確立していくことが挙げられる。幼稚園教育は教科のない教育であるが、その専門性については未だはっきりと示されていない。また、点数に表せない教育のため、教師の評価も他職種教員よりは難しい。明治初期からは幼稚園教育の評価は向上しているものの、幼稚園教育はその後の学校教育の基礎を養う重要な教育でありながら、幼稚園教諭ははまだ職務内容を正当に評価されているとは言い難い。今後、幼稚園教育発展のためにも幼稚園教諭の専門性確立は重要な課題である。

最後に、本調査にご協力いただいた幼稚園の先生方、本調査に関するご意見を頂きました園長先生、副園長先生、主任の先生方に深い感謝の意を表します。

文献

- (1) 文部科学省 (2008) 『教員個人調査』文部科学省 HP より
- (2) 新庄よしこ倉橋想三 (1930) 『日本幼稚園史』臨川書店 95
- (3) 岡田正章他編(1980) 『戦後保育史』2巻 (保母は何を望むか—保育協議会における保母調査) 「幼児の教育」第45巻2号昭和21年2月号 77

- (4) 高山育子 (2004) 『明治期における幼児教育の制度化と保姆の社会的地位』 日本教育社会学会大会
発表要旨集録(56) 68-69
- (5) 西本脩(1962) 『保育者の社会的地位に関する調査研究』 樟蔭家政学 13 56-73
- (6) 野呂育未(2009) 『幼稚園教諭の社会的地位に関する一考察』 関西学院大学教育学論究
創刊号 181-190
- (7) 社会階層と社会移動調査研究会(1995) 『職業に関する全国調査 (職業威信)』

(注1) 小西信八…当時の東京聾啞学校校長、東京女子師範学校にて幼児教育研究を行う

(注2) 福島ハマ…当時の厚生省保育課職員

幼稚園教諭の意識調査

幼稚園教諭が教職者の職務内容をどのように捉えているか、私立幼稚園教諭のかたを対象にしたアンケート調査です。今後、幼稚園教諭を専門職として確立していくには、どのようなことが必要なかを研究していくための土台となる調査です。正しい答えや誤った答えというものはありません。

このアンケート調査によって得られた情報は研究以外に使用することはありません。また、回答いただいた内容は集計致しますので、お答えいただいたアンケートがそのまま発表されることはなく、個人が特定されることもありません。ご協力いただけない場合でも不利益になることはありません。

※回答に 10 分程度時間がかかります。

調査者 愛知淑徳大学福祉貢献学部 助教 金森由華 <連絡先> 〒480-1197 長久手市片平9 Tel(0561)62-4111 rimonaka@asu.aasa.ac.jp

ご自身のことについて以下の欄に記入してください。

勤務年数	年	免許種類	専修	一種	二種

※○を付けてください。

1. 社会的な地位

非常に高い	高い	ふつう	低い	非常に低い
<div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%; border: none;"> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 15px;"></div> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 15px;"></div> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 15px;"></div> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 15px;"></div> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 15px;"></div> </div>				

2. 学歴

非常に高い	高い	ふつう	低い	非常に低い
<div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%; border: none;"> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 15px;"></div> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 15px;"></div> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 15px;"></div> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 15px;"></div> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 15px;"></div> </div>				

3. 収入

非常に高い	高い	ふつう	低い	非常に低い
<div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%; border: none;"> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 15px;"></div> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 15px;"></div> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 15px;"></div> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 15px;"></div> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 15px;"></div> </div>				

4. 生まれ変わったらもう一度幼稚園教諭をやりたい。

必ずやりたい	やってもよい	どちらとも いえない	あまりやりた くない	やりたくない
<div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%; border: none;"> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 15px;"></div> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 15px;"></div> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 15px;"></div> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 15px;"></div> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 15px;"></div> </div>				

II、幼稚園教諭の職務について感じていることをお尋ねします。
 ※該当すると思われる箇所に○をつけてください。

1. 特別な技能	とても必要であ る	必要である	どちらとも いえない	あまり必要で ない	必要でない
2. 子どもへの影響 力	とても強い	強い	どちらとも いえない	弱い	非常に弱い
3. 大人への影響力	とても強い	強い	どちらとも いえない	弱い	非常に弱い
4. 地域への影響力	とても強い	強い	どちらとも いえない	弱い	非常に弱い
5. 世間からの尊敬	とても強い	強い	どちらとも いえない	弱い	非常に弱い
6. 責任の大きさ	非常に大きい	大きい	ふつう	小さい	非常に小さい
7. 社会への貢献度	とても強い	強い	どちらとも いえない	弱い	非常に弱い
8. 文化的教養	とても必要であ る	必要である	どちらとも いえない	あまり必要で ない	必要でない
9. 学校(最終卒業 校)で学んだ知識を 活かしている	とても活かし ている	活かしている	どちらとも いえない	あまり活かし ていない	全く活かして いない
10. 仕事の内容を 自分で決められる。	完全に決め られる	おおむね決 められる	どちらとも いえない	あまり決め られない	全く決められ ない

Ⅲ、小学校教諭の職務についてのイメージをお尋ねします。
 ※該当すると思われる箇所に○をつけてください。

1. 特別な技能	とても必要であ る	必要である	どちらとも いえない	あまり必要で ない	必要でない
2. 子どもへの影響 力	とても強い	強い	どちらとも いえない	弱い	非常に弱い
3. 大人への影響力	とても強い	強い	どちらとも いえない	弱い	非常に弱い
4. 地域への影響力	とても強い	強い	どちらとも いえない	弱い	非常に弱い
5. 世間からの尊敬	とても強い	強い	どちらとも いえない	弱い	非常に弱い
6. 責任の大きさ	非常に大きい	大きい	ふつう	小さい	非常に小さい
7. 社会への貢献度	とても強い	強い	どちらとも いえない	弱い	非常に弱い
8. 文化的教養	とても必要であ る	必要である	どちらとも いえない	あまり必要で ない	必要でない
9. 学校(最終卒業 校)で学んだ知識を 活かしている	とても活かし ている	活かしている	どちらとも いえない	あまり活かし ていない	全く活かして いない
10. 仕事の内容を 自分で決められる。	完全に決め られる	おおむね決 められる	どちらとも いえない	あまり決め られない	全く決められ ない

IV、中学校教諭の職務についてのイメージをお尋ねします。
 ※該当すると思われる箇所に○をつけてください。

1. 特別な技能	とても必要であ る	必要である	どちらとも いえない	あまり必要で ない	必要でない
2. 子どもへの影響 力	とても強い	強い	どちらとも いえない	弱い	非常に弱い
3. 大人への影響力	とても強い	強い	どちらとも いえない	弱い	非常に弱い
4. 地域への影響力	とても強い	強い	どちらとも いえない	弱い	非常に弱い
5. 世間からの尊敬	とても強い	強い	どちらとも いえない	弱い	非常に弱い
6. 責任の大きさ	非常に大きい	大きい	ふつう	小さい	非常に小さい
7. 社会への貢献度	とても強い	強い	どちらとも いえない	弱い	非常に弱い
8. 文化的教養	とても必要であ る	必要である	どちらとも いえない	あまり必要で ない	必要でない
9. 学校(最終卒業 校)で学んだ知識を 活かしている	とても活かし ている	活かしている	どちらとも いえない	あまり活かし ていない	全く活かして いない
10. 仕事の内容を 自分で決められる。	完全に決め られる	おおむね決 められる	どちらとも いえない	あまり決め られない	全く決められ ない

V、高等学校教諭の職務についてのイメージをお尋ねします。
 ※該当すると思われる箇所に○をつけてください。

1. 特別な技能	とても必要であ る	必要である	どちらとも いえない	あまり必要で ない	必要でない
2. 子どもへの影響 力	とても強い	強い	どちらとも いえない	弱い	非常に弱い
3. 大人への影響力	とても強い	強い	どちらとも いえない	弱い	非常に弱い
4. 地域への影響力	とても強い	強い	どちらとも いえない	弱い	非常に弱い
5. 世間からの尊敬	とても強い	強い	どちらとも いえない	弱い	非常に弱い
6. 責任の大きさ	非常に大きい	大きい	ふつう	小さい	非常に小さい
7. 社会への貢献度	とても強い	強い	どちらとも いえない	弱い	非常に弱い
8. 文化的教養	とても必要であ る	必要である	どちらとも いえない	あまり必要で ない	必要でない
9. 学校(最終卒業 校)で学んだ知識を 活かしている	とても活かし ている	活かしている	どちらとも いえない	あまり活かし ていない	全く活かして いない
10. 仕事の内容を 自分で決められる。	完全に決め られる	おおむね決 められる	どちらとも いえない	あまり決め られない	全く決められ ない